

福祉施設の現場知って

西米良村 専門校生体験受け入れ

と話していた。

(多田浩一郎)

★「プレみや」にも掲載

不足する福祉従事者の呼び込みにつなげようと、西米良村は4日、宮崎保健福祉専門学校(宮崎市)のインターンシップ受け入れ事業を行った。同村によると自治体と介護職養成校が連携しての実施例は県内で珍しいという。生徒らは福祉施設を見学し、村民生活について理解を深めた。

同村の移住者、交流人口増のきっかけにもしようと企画。同校は地域福祉の現

児湯 西都

題字・加藤 芹香さん
(高鍋西小6年)

場を学ぶ機会にするため、介護福祉学科生24人が参加した。同村の黒木敦郎福祉健康課長と村唯一の特別養護老人ホーム「天包荘」役員が、高齢者福祉の実態について講話した。

学生らは同ホームを訪問し部屋を見学。サービス内容、外部との交流などについて職員の説明を受ける時間もあった。同学科1年の荒川真留香さん(18)は「施設の雰囲気を感じる感じが、居心地のいい緑豊かな土地での就職も考えたい」と話していた。



特別養護老人ホーム天包荘の職員(左)から施設での仕事内容などを聞く宮崎保健福祉専門学校生ら